



## 或る質問

傘木澄男神父

或る質問を受けました。「はたちを過ぎたばかりの娘が一年間の闘病の末に亡くなりました。私は祈りの力を信じて司祭の勧めで或る聖人に懸命に祈り続け、他の聖人にもとりなしを求めました。教会でも沢山のミサと祈りが娘のために捧げられました。でも悪化するだけでした。そしてもう助からないと分かった時、私は祈るのをやめました。それからというもの、祈りが役に立つとはもう思えないのです。何が起ころうとすべては神さまのみ旨です。私は他の人たちにも祈るように強く勧めてきました。でももうそれできません。教えてください。とりなしができないのなら、なぜ聖人たちに祈らなければならないのですか。」こういう質問でした。これにこうお答えしました。「お悲しみをお察しし心から同情します。私たち人間の見方からすれば、憐れみ深い神は罪のない人びとにそのような苦しみをお許しになるはずはなく、ただそれを受け入れられるだけです。私たちとしては、究極のところ二つの真理を受け入れなければなりません。一つは、聖書に明らかに言われているように、神は人間の理解をこえた無条件の愛で私たちを愛してくださるということです。旧約聖書にも「たとえ女が自分の乳飲み子を忘れることがあっても、わたしは決してあなたを忘れない。見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻んだ」と言われています（イザヤ 49）。二つ目は、神のなさり方は私たち人間の仕方とは異なり、神の見方と私たちの見方との間には無限の隔りがあるということです。

私たちの見方は、みじめなくらい時間と経験に限られています。それなのに悲惨な出来事に出会うと「あんまりだ」と反発して、「当然こうなるべきだ」と思うことを絶対に正しいと決めつけてしまうのです。時には聖人たちへの祈りに熱心なあまり、これらの真理が見えなくなり、自分の願いをかなえる「祈りの鍵がどこかにあるはずだ」と思い込んでしまうのです。でもそのようなものはどこにもありません。この現実を、「所詮私たちは神ではないのだ」という単純な事実を、受け入れなければなりません。しかし、だからこそ、祈りはどんな時も不可欠で、力があるのです。すなわち祈りは、神さまを、或いは私たちの身体に具わる力や働きを、変えることではなく、私たち自身を変えることなのです。祈りは私たちに、心を広くして現実を神がご覧になるように見ることが、「娘を特別愛してくださった神さまに早々と限りない幸せに迎え入れられて娘はむしろ恵まれていたのだ」と見ることが、）或いは少なくとも受け入れることが、できるようにさせてくれるのです。（以上）

## 住吉小教区評議会議事録

- 1 日時 2017年9月17日(日) 11:30~12:52
  - 2 場所 第2会議室、出席者 エマニュエル神父 ほか信徒13名
  - 3 次第 始めの祈り  
星の園幼稚園運動会 10月7日(土)(雨天中止時10/9(月))  
行事予定確認(追記、変更はメールで氏家迄お願いします)
- 議事① 10月22日(日) 10:00バイリンガルミサ(Fr傘木、Frラモス)  
ミサの日本語、スペイン語は例年どおり。退堂⇒行列を円滑に進める為、お知らせは当日プリントを配布し、読み上げは行わない。  
ミラグロス26周年。舞踊を捧げた後、奇跡の主行列、イベント  
\*打ち合わせ結果:10月に入り御絵(聖堂安置)、おみこし(倉庫)  
イベント時間は17:00まで。ビンゴ有。日没迄に片付け、撤収。  
行列は例年どおり、門の中から園庭周回コースとする。  
調理はキッチンを使用し、アルコールは禁止とする。  
11月12日(日)住吉教会フェスタにペルー料理出店検討(EV前)
- 議事② 墓地委員会報告 11月3日(金)教区納骨者・死者記念ミサ  
11月5日(日)住吉教会死者祈念ミサ  
9:30 司式Frエマニュエル、共同祈願  
14:00 神戸地区墓参(鶴越、舞子)
- T 相談役から会計支出報告:
- 議事③ 営繕チーム報告 1 シンボルツリーの剪定と東側フェンス内の木の剪定を六亀造園に依頼し、8/25.26に作業完了。シンボルツリーの木の高さが丁度良くなりました。支出承認済。  
2 8月15日の被昇天祭の時にルルドの泉に循環式のポンプで小さな噴水を造りました。
- 議事④ 10月8日(日)神戸中央教会バザーの住吉コーナー(11:00から)塩蔵わかめ販売、パウロ書店、カリスの販売お手伝い 大募集!
- 議事⑤ 11月19日(日)ミサ(Frコンサルタ)、七五三祝い  
13:00 神戸地区養成研修会;指導 アルフレド神父  
(会場神戸中央教会)  
“ユスト高山右近の靈性に倣う ~祈りの人となろう~”
- 議事⑥ 12月3日(日)待降節第一主日ミサ(Frエマニュエル)、黙想会  
エマニュエル神父様に黙想会指導をお願いし、受諾頂きました。

Frエマニュエルお言葉:行事があり、共同体の歩みを続ける。ミラグロス、フェスタ、皆仲良くしている。証し。近隣の方もぜひお越しいただきたい。

終わりの祈り

☆次回 10月15日(日)又は12月 日(日)

## セニョール・デ・ロス・ミラグロスについて

その起源は350年以上前の出来事に由来します。スペインによる統治時代の1651年、ある敬虔な黒人奴隷が南米ペルーの首都リマのパチャカミリヤ地区（当時リマの中でも特に貧しい人々の住む地域だった。）の粗末なレンガの壁に主キリストの磔刑像を描きました。

数年後の1655年11月にリマの街は大地震に襲われ全市はほぼ瓦礫の山と化していましたが、不思議なことにこの絵が描かれた壁は奇跡的に崩れませんでした。

その後1670年にアンドレス・レオンという人が全く見捨てられていたこの壁の周りの塵を払い、花やローソクで飾りつけ、屋根をつけました。彼は数年来悪性腫瘍を患っていましたが、毎日この絵の前にひざまずき、「どうか治りますように」と祈っていました。すると腫瘍は少しずつ消え始め、やがて完治してしまったのです。

その後1687年10月にも大地震が起きましたが、今度もこの壁は無傷のままでした。そのころからこの絵は奇跡のシンボルとされ、「セニョール・デ・ロス・ミラグロス（奇跡の主）」と呼ばれるようになり、聖画像を戴いた御輿を担いで奇跡をたたえる聖行列が行われるようになりました。

この御輿の表側には上述の磔刑のキリスト像、もう一方の側には1696年に北隣の国エクアドルに現れた聖母マリア「ビルヘン・デ・ラス・ヌベス」の絵が描かれています。

聖行列に際し、信徒たちは主キリストのご受難にちなみ、紫色の衣を身に着け白い帯を腰に巻いて参加します。

セニョール・デ・ロス・ミラグロスは今ではリマのみならずペルー全体の国民的行事となっており、ペルー以外でもそこに住むペルー人たちによって行われるようになってきました。住吉教会では1991年から行われるようになり今年も26周年になります。遠く母国を離れて暮らしているペルーの人たちの最大の宗教行事に私たちも一緒に参加して共に祈りを捧げたいと思います。

今年は10月22日（日）10：00 ミサ

ミサ終了後 聖行列

聖行列終了後フィエスタを催しますのでペルー料理や音楽、民族舞踊等をお楽しみください。